一歩

社会福祉法人　アルカディア

令和　4年　2月　発行　第41号

発達障害について

○働いている中で
「発達障害」について体験したこと。

物事を行うための準備に多くの時間を必要とすることがある。
例えば１９時にお風呂に入るとし、１５時頃からそのための着替えやバスタオルをどれにするか、パジャマはこれを着るかなどを決め、それら準備しておいたものどこに置くかを決めたり、同時に夕食の事も考える必要や休憩をしたりして時間が過ぎていく。ご本人としては少なくとも４時間ほどを見積もりお風呂に入るために準備することがある。

そのため、お風呂に入るまでの準備が本人にとっては、
とても大変なこととなる。結果的に入りたい気持ちは
あるが毎日入ることは負担が大きく、
結果２週間に１回程度の入浴で精いっぱいとなる方もいる。

その他に、生活上の様々な場面でコミュニケーションが上手くいかなかったり、周囲の行動に合わせて自分の行動や順序等を切り替えることが難しい場面に直面してしまう。
本人の抱える難しさを周囲の人たちに理解してもらうことが難しく、ストレスの多い環境で、ご本人にとって辛い経験が繰り返されると、不安がより大きくなったり抑うつになったりすることにつながると考えられます。
そのため重要になってくるのが医療と福祉のサポートだと思います。

太田市地域活動支援センターⅠ型ふらっと　職員

発達障害について

アルカディア相談支援事業所　職員

アルカディア相談支援事業所とは？

太田市障がい者相談支援センター内にあり、相談支援専門員2名で相談を受けています。
場所は太田市役所1F福祉課の隣にあります。太田市障がい者相談支援センターは基幹型の相談支援センターであり、アルカディア以外にも他法人から3名の相談支援専門員が配置されており、合計5名体制で相談を受けています。

基幹型の相談支援センターは相談支援の拠点として総合的な相談業務を行っています。
相談内容は病気の事や福祉サービスの利用、障害年金、ひきこもり、親なき後…など様々です。相談支援専門員からの相談も受けています。
虐待防止センターも兼ねているため、虐待の相談も受けています。

発達障害者支援法

発達障害者支援法がH17年に施行され、
社会全体で理解し支援を行っていく
こととされました。（H28年改正）

＜発達障害とは＞

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものと定義されている。原因ははっきりしていないが、脳機能の働きに生まれつき特性があると考えられている。
第2条で発達障害者とは、発達障害がある者であって発達障害及び社会的障壁により日常生活または社会生活に制限を受けるものとなっている。

発達障害について

「発達障害」とよく聞くようになってきたが、
どんなことをいうのか…

自閉症スペクトラム症の特性

○コミュニケーションや対人関係（社会性）の困難さ

・コミュニケーションの困難さ
たくさんの情報を一度に処理しきれない。非言語的な表現が苦手。ことばを文字通りに解釈して冗談が通じない。あいまいな表現ができない。

・対人関係（社会性）の困難

場の空気が読めない。周囲の状況を理解しその場に合った言動をすることが難しい。その為、悪気がなく相手の気持ちを害することを言ってトラブルになることがある。

○パターン的な言動・こだわり・感覚の過敏

・初めての場所や物・人、突然の予定変更が苦手でパニックを起こしたりする。
・いつもと同じパターンは非常に得意。
・毎日の生活習慣にこだわりがある。
・行動の切り替えが苦手で次の行動にすぐ移れない。
・興味のあることにこだわり、非常に熱中する。
・興味のあることには詳しく「博士」と呼ばれる人もいる。
・感覚の過敏さ鈍感さ。

○その他

体の動かし方、使い方がアンバランスで手先が不器用、ボール遊びなどの運動が苦手など自分の体をうまく使えない。

上記のような発達特性を持っているが、これだけでは説明はしきれていない。

日常生活を送る上で特別な援助や支援を必要とする場合に「障がい」と言う。特性があるからと言って障がいではないと思う。「発達障害」という言葉をよく聞くようになり、ネットで検索すればチェックリストのようなものが出てくる。それをチェックしてみるとどこか当てはまるのではないか？人はダメな部分ばかりが見えてしまう。

次のページに続く

発達障害について

〇〇が苦手、△△ができない等否定的な表現をすぐにしてしまう。

しかし、中には博士・オタクと言われるような得意な分野や好きなことに焦点をあてその部分を伸ばして、特性を自分なりに活用している人も存在する。対人でのコミュニケーションが取れない人がSNS上ではコミュニケーションが取れている。

多動傾向にある人には視覚的に本人にわかるような文章を机に置いたら守れるようになったり、その人の特性（個性）を理解してそれぞれに合った対応方法を考えると生活しやすくなっていく。
職場で対人面での苦手さやいろいろ言われるとパニックになったり、期限が守れない、ミスが多い、臨機応変な対応ができないなど不適応を起こし退職せざるを得ない人もいる。「適材適所」ではないか？と思うことも多々ある。
また、「特性」という言葉もよく使われるが、個人的には違和感を感じることもあり、その人の「個性」ではないかと思うことがある。
対人関係が苦手な人は接客業、電話対応などの仕事には向いていない。苦手な分野の仕事を選んでしまうと、ただ辛いだけになってしまう。やってみないとわからないことはたくさんあるけど、「自分ってこんな人間なんだ」と自分の得意・不得意を知り、得意な部分を活かせる環境もすごく大事ではないかと感じている。

編集後記

支援にあたり、個人に合わせ一貫した継続的なものが必要なのではないかと感じる。発達障害に限ったことでなく、障がいの影響によって周囲からの理解が得づらく、周囲の環境による自身の生活へ支障を来す可能性は高いのではないだろうか。その為、通院や通所など、継続した医療と福祉による環境の整備を行い、周囲が本人の障害を理解した環境やサービスを継続できるよう、個別的に本人の環境に合わせた支援を提供することが大切ではないだろうか。本人を取り巻く環境が整うことで、本人のもつ《障がい》は《個性》といった概念へと、少しずつ変化をしていくのではないだろうか。

編集委員会

法人本部：群馬県太田市鶴生田町733-123
TEL：0276（20）2509　FAX :0276（20）2510
ホームページ：http://arcadia-gr.com/